

# 28M-am04S

フタバガキ科植物の成分研究 (41) インドネシア産 *Vatica bantamensis* 葉部の成分 (4)  
○原 康雅<sup>1</sup>, 伊藤 哲朗<sup>1</sup>, 大山 雅義<sup>1</sup>, Dedy DARNAEDI<sup>2</sup>, 田中 稔幸<sup>3</sup>,  
邑田 仁<sup>4</sup>, 飯沼 宗和<sup>1</sup>(<sup>1</sup>岐阜薬大・生薬学, <sup>2</sup>LIPI, <sup>3</sup>岐阜薬大・薬用資源学, <sup>4</sup>東大院・  
植物園)

【目的】フタバガキ科は、主に東南アジアの熱帯から亜熱帯に自生する 17 属 500 種を超える科である。本科植物の材は建築材料として多用される一方で、加工の際に葉部は廃棄されている。我々は、未利用廃棄資源の有効活用と本科植物由来の化合物ライブラリーの充実を目的として、本科葉部の成分精査をすすめてきた。今回は前報<sup>1-3)</sup>に引き続き同科植物 *Vatica bantamensis* (Hassk.) B.&H.ex Miq 葉部の成分研究を行った。

【方法・結果】インドネシア産 *V. bantamensis* 葉部を乾燥・粉碎後、室温にてアセトン抽出を行い、得られたアセトンエキスを各種クロマトグラフィーにより分離・精製し、新たに新規化合物 **1-3** を含む 9 種の化合物を単離した。各化合物について各種 NMR、MS データ解析の結果によりレスベラトロール誘導体 (**1, 2, 4, 5**)、テルペノイド配糖体 (**3**)、イソクマリン誘導体 (**6-8**)、アルカロイド配糖体 (**9**) の構造決定に至った。化合物 **1** はレスベラトロール 4 量体でありトリシクロ[6.3.2.0<sup>2,6</sup>]トリデカン環を持つことが判明した。化合物 **2** は hemsleyanol D の配糖体であった。今回の結果より本植物が多様な成分系を持つことが明らかとなった。

1) 日本薬学会第 132 年会 (札幌) プログラム, p107 29E10-pm02S (2012). 2) T.Ito, Y. Hara *et al. Phytochemistry Letters*, **5**, 743

-746 (2012). 3) 日本生薬学会第 59 回年会 (千葉) 講演要旨集, p59 1Bp03 (2012).

